

2nd
アワード
ann
unc
ment

日本獣医臨床病理学会 2022年次大会 オンライン開催

正確な臨床検査のためにいま私たちができること

オンデマンド配信 

9 | 1 - 9 | 30
2022 | THU | FRI



大会参加登録

■ 大会参加費

会 員 3,000 円
非会員 (獣医師等) ... 5,000 円
動物看護師 2,000 円
学 生 1,000 円

■ 参加登録期間

7月4日(月)～9月29日(金)
参加登録は会期前日まで受付致します

■ 参加登録

下記URLより受付します

<https://form.run/@jsvcp-2022>



お支払い方法

クレジットカード支払い・銀行振込

検査に関わる人、
集合せよ



JSVCP
JAPANESE SOCIETY OF VETERINARY CLINICAL PATHOLOGY

主 催 : 日本獣医臨床病理学会
大会長 : 西飯直仁 (岐阜大学)
実行委員長 : 米澤智洋 (東京大学)



日本獣医臨床病理学会

<http://www.jsvcp.jp/>



教育講演：正しい検査ルーティーンを身につける

モデレーター：井手香織(東京農工大学)

- ビョーキは作れる!? ウソの結果をもたらす、検体取扱いの落とし穴…………… 井手香織先生(東京農工大学)
- その検査の値、どこまで信じる? 院内測定の限界を知る…………… 早川典之先生(日本獣医生命科学大学)
- それって今日診断できます! 内分泌検査機器アップデート…………… 湯木正史先生(湯木どうぶつ病院)
- 自動CBCを鵜呑みにしない! 塗抹検査で正しく補正できる…………… 久末正晴先生(麻布大学)

シンポジウム：意外と知られていない動物医療の臨床検査事情

モデレーター：早川典之(日本獣医生命科学大学)

- ナルホド納得、生化学・免疫学的検査結果の作り方…………… 浅井智仁先生(富士フィルム株式会社)
- 鏡検にどこまで近づいた血球計算装置…………… 齊藤憲祐先生(株式会社堀場製作所)
- 検査結果に納得できる?検査管理と基準範囲…………… 末吉茂雄先生(女子栄養大学)
- それでは検査結果を考えてみよう…………… 早川典之先生(日本獣医生命科学大学)

細胞診・ドライラボ

- 細胞診基礎教育：標本の作り方と細胞診からわかること…………… 浅川 翠先生(どうぶつの総合病院, DACVP)
- ドライラボ：一緒に標本から診断をしてみよう…………… 石崎禎太先生(ノースラボ, DACVP) 田邊美香先生(動物病理診断センター, DACVP) 小笠原聖悟先生(小笠原犬猫病院, IDEXX, DACVP) 皆上大吾先生(東京農工大学) 根尾櫻子先生(麻布大学, DACVP)

募集期間を延長しました

一般演題を募集しています

一般演題 獣医臨床病理学に関わる演題

抄録応募期間

■ 2022年6月1日(水)～7月19日(月)

(右のQRコード[演題登録フォーム]より受付します)



1. 症例報告：臨床症例の検査、診断に関連した報告(症例の新規性にかかわらず、広く募集します)
2. 研究発表：検査法、診断法に関する研究成果の発表
・犬猫に限らず、大動物、野生動物など幅広く募集します。

動画

発表形式：オンライン発表(オンデマンド配信)

- 発表者の方は参加登録をお願いします。
- 優秀な発表はアワードとして表彰します。(大学教員および元教員は対象外です)

協賛・広告掲載 申込方法

オンライン・コンテンツ内で
バナー、販促動画等の枠を企画中です。
詳しくはHPをご覧ください(協賛案内頁)。

お問い合わせ

日本獣医臨床病理学会 事務局

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 2-9-19
TEL：03-5916-0180 FAX：03-5916-0181
E-MAIL：info@jsvc.jp

日々の診療で、検査値に疑問を持ったことはありませんか?

臨床検査として測定できる項目が増え、診断にも様々なコンセンサスが提唱され始めた昨今、正しい検査法によって正しい検査値を得ることは、当たり前のように、実際のところまったく混沌としているのが現状です。日々の診療の中で、信用できない検査結果が得られたり、検査項目間での辻褄が合わなかったりして、頭を悩ませた経験は誰しもあるのではないのでしょうか。



今年度の年次大会では、正確な臨床検査のために、いま私たちができることをテーマに構成を考えました。教育講演では、普段の診療において正しい検査ルーティーンが実施できているかに焦点を当てました。守られねばならない最低ラインが間違いなく実施されているか、各自改めて点検していただきたく思います。そしてシンポジウムでは、各分野の検査のプロをお招きしています。我々の信じている測定値が、いかにあやふやな物なのか、その裏側を暴いていきたいと思えます。細胞診・ドライラボでは例年どおり米国専門医をお招きし、質の高いディスカッションが行われるものと期待しております。

本学会のコンテンツが、普段の検査の中で何を信じ、何を得ればよいのかのヒントになれば幸いです。

大会長 西飯 直仁

会員 各位

平素から大変お世話になり有難うございます。

日本獣医臨床病理学会の会長の大阪公立大学（元大阪府立大学）の嶋田照雅と申します。

現在当学会の年次大会が、「正確な臨床検査のためにいま私たちができること」をテーマにオンラインで開催しております。

下記のコンテンツをご覧頂き、是非学会へご参加頂けましたら幸いです。

ご高配の程何卒よろしくお願い申し上げます。

日本獣医臨床病理学会

会長 嶋田 照雅

=====

日本獣医臨床病理学会 2022 年次大会 ～ 正確な臨床検査のためにいま私たちができること ～のお知らせです。

日々の診療で、検査数値に不安や疑問を持ったことはありませんか？ 現在日本獣医臨床病理学会では、「正確な臨床検査のためにいま私たちができること」と題し、2022 年次大会を 9 月 30 日までオンラインで開催中です。

コンテンツは下記の内容です。是非、<https://form.run/@jsvcp-2022> からご参加のご登録をお願い申し上げます（【参加費】会員 3,000 円 非会員（獣医師等） 5,000 円 動物看護師 2,000 円 学生 1,000 円）。

教育講演 『正しい検査ルーティーンを身につける』

1. ビョーキは作れる！？ ウソの結果をもたらす、検体取扱いの落とし穴
井手香織 先生（東京農工大学）
2. その検査の値、どこまで信じる？ 院内測定の限界を知る
早川典之 先生（日本獣医生命科学大学）
3. それって今日診断できます！ 内分泌検査機器アップデート
湯木正史 先生（湯木どうぶつ病院）
4. 自動 CBC を鵜呑みにしない！ 塗抹検査で正しく補正できる
久末正晴 先生（麻布大学）

シンポジウム 『意外と知られていない動物医療の臨床検査事情』

1. ナルホド納得、生化学・免疫学的検査結果の作り方
浅井智仁 先生（富士フィルム株式会社）
2. 鏡検にどこまで近づいた血球計算装置

齊藤憲祐 先生 (株式会社堀場製作所)

3. 検査結果に納得できる？検査管理と基準範囲

末吉茂雄 先生 (女子栄養大学)

4. それでは検査結果を考えてみよう

5. 早川典之 先生 (日本獣医生命科学大学)

細胞診 ・ ドライラボ

1. 細胞診基礎教育：標本の作り方と細胞診からわかること

浅川 翠 先生 (どうぶつの総合病院, DACVP)

2. ドライラボ：一緒に標本から診断をしてみよう

石崎禎太 先生 (ノースラボ, DACVP)

田邊美香 先生 (動物病理診断センター, DACVP)

小笠原聖悟 先生 (小笠原犬猫病院, IDEXX, DACVP)

砦上大吾 先生 (東京農工大学)

根尾櫻子 先生 (麻布大学, DACVP)

一般演題

研究発表

犬の尿路移行上皮癌および前立腺癌における細胞診迅速蛍光抗体法を用いた COX-2 の検

古澤 悠

猫の消化器型リンパ腫における SAA の変化

秋吉 亮人

血中コルチゾール濃度による犬のリンパ腫の治療成績の比較

分枝 快斗

N-NOSE の犬と猫への応用について

杉本 敏美

BCG 法におけるイヌおよびネコ血清アルブミン測定による反応性について

福村 菜那

犬・猫検体における intact PTH 測定方法の探索

坂本 芽以

犬の歯周病治療介入における血液検査学的改善パターンに関する回顧的調査

田村 和也

犬のエリプトーシスにおけるセラミド形成に関する検討

眞下 大和

獣医療域のコマーシャルラボにおける臨床化学検査：精度管理の取り組み

津田 聡一郎

血球形態標準化に向けた白血球形態サーベイトライアル

根尾 櫻子

症例発表

イルカ飼料への水産物未利用資源導入によるフードエンリッチメント効果：イミダゾールジペプチド高含量のカツオ腹皮がイルカの臨床病理学的検査値を改善する

荒川奈那美

新しい intact PTH 測定系が病態の評価に有用であった犬の 2 例

白石 一郎

高カルシウム血症を呈した Talaromyces 属菌による播種性真菌症の犬の 1 例

秋山奈緒

上皮小体腺腫および腺癌を切除した犬の 1 例における血中カルシウムおよび PTH 濃度	小野 雅樹
組織球増殖性疾患の犬の 2 例	井口 愛子
抗インスリン抗体によるインスリン抵抗性が疑われた猫の 1 例	谷口 陽菜
尿中ホルモン濃度測定でプロゲステロンおよびノルメタネフリンが高値であった副腎腫瘍の 1 例	榎本 武留
原発性アルドステロン症に原発性副腎皮質機能低下症を併発した猫の 1 例	岡本 梨沙
うっ血性右心不全を呈した肺 MAC 症の猫の 1 例	竹ノ内史子
捕捉性好中球減少症と診断したボーダー・コリーの犬の 1 例	清田 リサ